

【別紙①】

第1学年 算数科学習指導案

1 単元名 なんじ なんじはん

2 趣旨

○ 本単元では、時計の長針・短針のさす目盛りに着目して時刻を読んだり、文字盤で表したりできるようにするとともに、その良さや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。時計が読める、時刻が分かることは日常生活上必要なことであり、数字上の操作による理解だけでなく、日常生活に結びつけることでより良い理解につながる。

○ 本学級の児童にとって、時計は身近な道具である。日常生活の中でも「ちょうど何時」「何時半」「長い針が3まで来たら…」などの言い方で時刻を表している。すでに時計の読み方を知っている児童がいる一方、「昨日は何時に寝たの」と質問しても時刻が分からず答えられない児童もいる。

アナログ時計を読み取ることができるかを調査するアンケートを実施したところ、以下のような結果になった。(実施児童 27名)

短針・長針をどちらも正しく読み取れた	短針・長針どちらかを読み取れた	長針・短針をどちらも読み取れなかった
9名	9名	9名

長針・短針を読み取れなかった児童の中では、「ちょうど〇時」の長針を見て「12時」と答えたり、「〇時半」の長針を見て「6時」と答えたりする児童が6名いた。また、時刻を全く読み取れていない児童が3名いた。

デジタル時計の表示を見る機会が増えたことや各家庭での生活経験の違いから、長針と短針に着目してアナログ時計を正確に読むことに対して個人差があると考えられる。

○ 本単元の学習では、日常生活と関連付けながら時計や時刻に関心をもてるようにする。時計の読み方の指導に当たっては、まず何時であるかを正確に読み取ることができるようにするために、短針のみに注目させる。次に、短針と長針の両方が示す目盛りから時刻を読めるようにするために、長針が「ちょうど〇時」「〇時半」といった時刻を詳しく表していることを理解させる。単元全体を通して、模型の時計に触れる時間を多くとり、体験的に時計や時刻が理解できるようにする。

さらに時刻の概念は、生活の中で養われるものであるため、本単元終了後も児童の実態を把握し留意しながら継続的に指導することで、普段の生活の中でも時刻に関心をもてるようにする。

3 小中一貫教育の視点

本単元の学習は、第1学年3学期の何時何分を読み取る学習や、第2学年の時刻と時間を理解する学習につながる。長針・短針をもつ時計をみて、日常生活と結び付けるなかで時刻の概念を明確にし、時計に親しませることが大切である。

4 単元の目標

○何時・何時半の時刻の読み方を理解し、時刻を読んだり文字盤で表したりすることができる。【知識・技能】

○時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。【思考・判断・表現】

○日常の生活場面に即して、時計を観察し、長針・短針の目盛りを見て、時刻を読もうとする。【態度】

5 指導計画（1時間）

時数	主な学習内容	評価	大切な言葉
1	何時・何時半の時刻を読むこと、表すこと	何時・何時半の時刻の読み方を理解し、時刻を読んだり文字盤で表したりすることができる。【知】	さす、こえる、あわせる ちょうど〇じ、〇じはん

6 本時の学習

(1) 目標

○教科：時刻の読みに興味・関心をもち、短針・長針がさす目盛りに着目して「何時」「何時半」の時刻を正確に読み取ったり、模型の時計で時刻を表したりできる。

○日本語：「さす」「こえる」という言葉に着目し、長針・短針の動きが理解できる。

「あわせる」という言葉の意味を理解して、模型の時計を操作できる。

○人権教育の観点：3－（2）－ア 人間関係の活性化

(2) ターゲットセンテンス

「ちょうど〇じ」、「〇じはん」

(3) 本時の数学的活動

模型の時計を使って時刻の問題づくりをする。

(4) 展開

学習活動	支援と指導上の留意点（・）及び評価（◆）	備考
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>絵の女の子はなにをしているのかな。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挿絵の中にある時計に注目させ、日常生活と関連付けるとともに、学習に対して興味・関心がもてるようにする。 ・ 挿絵の時計の読み方を知らせ、短針の位置の違いに気付かせることで、時刻の読み方について推測させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> <p>とけいをつかって なんじか わかる。</p> </div>	
<p>2 解決の見通しをもつ。</p> <p>○ 短針について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模型の時計を操作する。(個人) <p>○ 長針について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模型の時計を操作する。(個人) ・ 模型の時計で問題づくりをする。(交流) <p>「ちょうど〇時」 「〇時半」</p> <p>3 適用題を解く。</p> <p>○ 教科書 p.81②の問題を模型の時計で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長針・短針を親しみやすいキャラクターに置き換えることで、より印象強く記憶に定着できるようにする。 ・ 模型の時計で短針・長針を操作することで、針の進む方向を確認する。 ・ 短針だけに着目させることで、「〇時」というのは短針の目盛りを見ることで分かることに気付かせる。 ・ 短針が数字と数字の間にあるときは、針の進む方向を考えさせることで、何時なのか気付かせる。 ・ 長針と短針は連動しており、「ちょうど〇時」では、長針は常に12をさし、「〇時半」では、長針は常に6をさしていることを知らせる。 <p style="text-align: right;">◆ 長針・短針の位置に着目して、活動している。 【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適用題に取り組ませることで、「時刻を読む」「時刻を表す」という本時の学習を定着させる。 <p style="text-align: right;">◆ 何時・何時半の時計を読んだり作ったりすることができる。 【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を解くことで本時のふり返りとする。 	<p>記憶支援</p> <p>理解支援</p> <p>記憶支援</p> <p>理解支援</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短い針を見ると何時かわかる。 ・ 「ちょうど〇時」のとき長い針は「12」、「〇時半」のとき長い針は「6」のところにある。 	
<p>4 本時の学習をふり返る。</p> <p>○ 生活時程を見て、日常生活の時刻を模型の時計で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も生活の中でアナログ時計を見て時刻を確認していくことを伝え、日常生活に関連付ける。 <p style="text-align: right;">◆ 生活場面の時刻に関心をもち、時刻を読もうとしている。 【態度】</p>	<p>情意支援</p>